世界旅打ち気分

●第87回・イギリスの主要場2場

須田鷹雄



写真1）アスコットのパレードリング、左がスタンド



写真2）アスコットの芝生ゾーンはそこまで人口密度が高くない



写真3）ドンカスターのレースシーン

https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/

だいぶ長いこと続けているこの連載だが、「あの競馬場がまだだったか」というものもある。今回はイギリスの競馬場から皆さんも知っている2場をお届けしよう。

まずはアスコット競馬場。ちょうどこの原稿を書いているのがロイヤルアスコット開催の最中だ。

アスコット競馬場というと、思い出すのが2017年にグリーンチャンネルのロケで行ったときのことだ。エネイブルが勝ったキングジョージの当日である。天気はいまひとつだったが大レース、しかも超スターホースが勝つところを見られたし、デットーリ騎手のフライングディスマウントも見たし、上々の一日であった。

当時記憶に残っているのが、サンドイッチ。競馬場ロケというとなにかしら食べ物に触れたいわけで、かといってレストランでがっちり食べては時間をとりすぎる。番組プロデューサーがスタンドを駆け回って見つけてきたのが「高級サンドイッチ」だった。カニ肉がたっぷり挟まったものがひとつで、もうひとつはエビだった。お値段は、エビのほうが日本円で3000円、カニのほうはなんと5000円。

「高っ！」と言いつつ食べるシーンを撮ったが、その後の物価上昇率の違い、そして円安を加味すると、「いまならそんなものかも」という気もする。なにしろウォータールー駅の丸亀製麺でトッピング2個乗せただけで2500円の時代になっているのである。

その2500円うどんを経験したのが昨年のこと。ロケ後にも行く機会はあったのだが、やはりロイヤルアスコット開催というものに一度は行かねばと思った次第だ。

ロイヤルアスコットというとドレスコードが大変というイメージがあるだろうが、それはロイヤルエンクロージャーの話。どのみち我々が客として行くときにロイヤルエンクロージャーを選ぶことはない。その次のクイーンアンエンクロージャーだと、男性の場合「上下揃いのスーツ・襟付きシャツ・ネクタイ」だからそう厳しいわけではない。ただくるぶしまで隠れる靴下を履いている必要はあり、石田純一スタイルは許されない。もうひとつ下のビレッジエンクロージャーだとジャケットとズボンが揃いでなくても許される（石田純一スタイルは×）。いちばん下のウインザーエンクロージャーだと、スマートカジュアル程度でも容認されるようだ。

張り切っていくとしても派手めスーツでクイーンアンエンクロージャーに行けばよい。ちなみに入場料は今年の場合110£。日本円で23400円である。入場料のみでこれ。席はない。地べた価格だ。

それでも場内の雰囲気はとにかく華やかで、花で彩られたパレードリングの様子などはやはり雰囲気がある。日本のように開門ダッシュからラチ沿いにビニールシート……なんてことはないので、レースごとにちょっと早くラチ沿いに行けば間近にレースを見られる。物価の高さはどうにもならず、ギフトショップでかわいい馬の顔の形をしたクッキーを見つけたが1缶8000円……といったこともある。それも含めてふだんと違う環境を楽しむのがよい。

唯一気をつけたいのが天気と気温。最近はイギリスでもいきなり暑い日がある。昨年私が行った日も猛暑で、駅から競馬場に向かう道でアイスクリームの試供品が配られたほど。熱中症で倒れた人も場内で見たが、後の報道によると実は50人診療所行きになっていたらしい。皆様も渡航の際には気をつけていただきたい。

今回もうひとつご紹介するのがドンカスター競馬場。セントレジャーが行われる競馬場だ。一度しか行ったことがないので詳しく語れるわけではないが、交通についておすすめがある。

ロンドンからだとキングスクロス駅から北に1時間半ほど列車に乗ってドンカスター駅に行き、バスターミナルからバスで競馬場に行く。この鉄道路線はもう少し北に行くとヨークなどに繋がる「ロンドンノースイースタンレイルウェイ」、通称LNERなのだが、ヨークを含めLNERを利用するときはファーストクラスを取るとよい。イギリスの鉄道のファーストクラスは鉄道会社によってかなり差があり、LNERはいちばん良いほう。車両や座席の良さだけでなく主要駅にはファーストクラスラウンジがあるし、「機内食」も出る。南側の鉄道会社とはだいぶ差がある。イギリスで鉄道を使い競馬場巡りをするときはブリットレイルパスという日数指定の乗り放題券を使うとよいのだが、LNER沿いの競馬場にも行くときはファーストを取る価値がある。

写真で振り返ると、私が行った日（セントレジャーではない）は入場料が「松80£、竹45£、梅35£」。もちろん松竹梅と書いてあるわけではない。3種類あったということだ。17年の話だからいまだともっと高いだろう。いま松が100£とすると2万円を超える。それでもこういうときはケチらずにせめて竹ぐらい買ったほうがよい。せっかく行ったのだから見て回れるエリアが広いほうがよい（上を買って並ゾーンに入ることは可能）し、高いエリアのほうが空いていて楽に過ごせる。ちなみに場内では梅から竹への、昔の公営競技でいう「お直り券」も売られていた。

ドンカスター競馬場といえばやはりセントレジャーなので、スタンドの中には歴代勝ち馬が書かれたボードがある。他にスタンド内の見どころは特にないが、私が行った日は名馬や名騎手の絵画を売っている人がいた。1枚数十£程度の値段だったので、ちょうとそそられるものはあった。

メインのスタンドは1階がベッティングホールとバーになっていて、大広間のようなところに人が大勢して酒を飲みながら競馬そっちのけで喋っているというのはイギリスの競馬場によくあるパターンな気がする。

確かそこから2階に上がったところがフードコートで、パイやピザなどいろいろな店があった気がする。スタンドは他にもうひとつあり、あと使われていない古いものがある。この古いスタンドはなかなか味わいがあり、記念写真を撮るなどに向いている。

たぶん「竹」と「梅」の国境だと思うのだがともあれエンクロージャーの国境沿いにブックメーカーが立ち並んでいるのだが、発走直前になるとみんな電光掲示板をパタパタと倒してスタンド側のお客さんからレースがよく見えるようにする。今回載せた写真では2軒ほどボードを立てたままの業者がいるが、そことコースの間（たぶん「梅」ゾーン）はごった返している一方、活気もある。